

## 平成19年度第4回宮崎県社会教育委員会議事録要旨

- 1 開催期日：平成20年1月18日（金）15時から17時まで
- 2 会 場：県庁会議室
- 3 出席者：委員16名（1名欠席）
- 4 説明及び協議
  - 第1回～第3回の協議内容の総括
  - 今後の協議の進め方

### 〈確認事項〉

- 家庭の教育力向上部会においては、「家庭の役割の定義付けと保護者への啓発」「保護者や明日の親の学ぶ場の設定」を中心に協議する。
- 地域の教育力向上部会においては、「公民館や小学校等の施設を活用した地域住民の活動拠点づくり」「女性・高齢者等の社会貢献活動の充実（活動拠点の中での）」を中心に協議していく。
- 具体策を検討する際、「行政と地域住民の協働」「保護者の参画」「日常化」等のポイントに留意する。

- 5 分科会 〈以下、○は委員の発言〉

### 【家庭の教育力向上分科会】

- 家庭の教育力の向上を図るためには、家庭がどういう場であるのか、家庭でどんなことをしつけないといけないのかを認識させることが大切である。その具体例として、「早寝早起き朝ごはん」が意見として出てきている。
- 家庭の役割とか、しつけの在り方をきちんと定義すべきである。
- 食育もしつけの一つである。家庭でしつけるべきことを再認識させることが必要である。
- 家庭の役割・定義付けが一番目の大きな柱になると考える。そして、家庭教育の意義や役割をどのように普及・啓発していくかを二番目の柱として考えたい。
- 社会的規範や他者への思いやりなど、自立するまでに何を身に付ければいいのかを考えればいいのかではないか。
- 子どもの発達段階に応じたしつけのポイントを整理すれば、保護者から見ても分かりやすいのではないか。
- 「幼児期であなたのお子さんはこれできていますか？」というようなシンプルなチェック表を作成して公民館等に置き、保護者が気軽に手に取ることができるようにすれば、啓発になるのではないか。
- 家庭内での具体的な生活場面に合わせてチェック項目をつくってみてはどうか。
- 発達段階に応じたしつけの方法、それに加えて食事が大切だということを織り込んで、スローガンのものをつくってみてはどうか。
- 県教育庁生涯学習課のホームページ「SUN-NETみやざき」を活用し、食生活等を通じて何が培われていくかということを図式化して掲載してみてもどうか。

- 発達段階に応じた項目を分かりやすく図式化できるといい。
- 「食事」が子どもの生きることの基盤であるから、それを通して親子のコミュニケーションもできるし、家庭生活の他の場面にも関わってくるので具体的に整理できるのではないか。
- 今一番家庭で培ってほしいことを出し合い、チェック項目に入れていくようにする。(例：あいさつ、自立心、他者への思いやり、礼儀作法等)

#### 【地域の教育力向上分科会】

- 県北地区の自治公民館では、専門部を組織し、地域住民の交流活動を行っている。地域活動として、環境美化、子ども見回り、敬老会等を実施している。また、学習活動として、婦人学級、男性料理教室、野菜作り講習会等を行っている。さらに、広報を発行し、館内での出来事を紹介することで情報の共有化に努めている。
- 小学校内に地域開放型の連携施設をつくっている。高齢者や民生委員等が活用しているが、子どもや地域住民相互の交流の場となり、地域住民間の「和」を育む場となっている。
- 宮崎市内の小学校内に地域開放型の連携施設があり、そこでは、高齢者や単位区会、民生児童委員等が利用している。また、地域住民の中にコーディネーター役がおり、地域に根ざした学校として、施設を拠点として地域住民の輪が広がっている。
- 県内の青年団は、地域との関わり、地域の将来、親として等を考えながら活動している。現在、子ども事業に力点を置いている。
- 地域活動に取り組む様々な団体が、いつでもどこでも誰でも集える場が必要である。
- 「地域の教育力の向上をいかに高めるか」を基本にして考えないといけない。事業を評価する際に、「地域住民がどう関わっているのか。」「どのような交流が行われているのか。」が大切になってくる。
- 県内の取組事例として、綾町の登館日がある。これは、夏季休業日に公民館登校の日をつくっているものであり、自治公民館が中心になって町民挙げて参画している。
- 第3回の会議で資料として提示された福岡県須恵町の取組のポイントは学校内に公民館機能を持った施設をつくり、スタッフが常駐し、地域と学校の連携に係るコーディネートを行っているところである。
- 地域の教育力を向上させる目的は何なのか。その目的を明確にして具体的な議論をする必要がある。
- 団体相互をつなぐコーディネーターの育成が課題である。
- 人づくりが最終の目的であり、人間の成長(例：幼児期、小学校期等)に合わせて視点(指導のポイント)を押さえるべきである。

#### 6 全体会

各分科会長が分科会報告を行い、相互に意見交換を行った。